



第34回日本急性血液浄化学会学術集会

ランチオンセミナー1 (LS1)

敗血症病態に対するPMX-DHPの効果を 直接的短期効果と間接的長期効果に 分けて使いこなす

日時

2023年 **9月30日** (土) **12:35 ~ 13:35**

会場

第1会場 (ウインクあいち 6階「604・605」)

〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅4丁目4-38

演者

中村 謙介 先生

横浜市立大学附属病院 集中治療部

司会

山下 千鶴 先生

藤田医科大学医学部 麻酔・侵襲制御医学講座

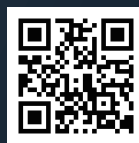
本セミナーは整理券制（一部、当日配布）です。

学術集会事前参加登録時に WEB からの申し込みをお願いします。

詳細は学術集会ホームページにてご案内いたします。

学術集会ホームページ： <http://jsbpcc34.umin.jp>

事前登録期間：8月8日（火）～9月22日（金）正午



参加登録はこちらから

敗血症病態に対するPMX-DHPの効果を直接的短期効果と間接的長期効果に分けて使いこなす

中村 謙介 横浜市立大学附属病院集中治療部

急性血液浄化療法の中でも PMX-DHP は海外における RCT で死亡率を改善させないことが示され、その適用や使用方法について現在暗礁にあり試行錯誤の最中にある。一方で致死的な敗血症性ショックや敗血症性心筋症において PMX-DHP で劇的に救命できる症例も経験されるように、適切な患者に適切なタイミングで導入できれば患者の予後に貢献できるとも考えられる。ここで考えるべきは PMX-DHP の有効性は短期及び長期的にどのような点にあるのかである。PMX-DHP は導入によりカテコラミンの減量、酸素化の改善などに働くことが以前より報告されているが、短期的な効果として重要なのは昇圧効果であり、通常の昇圧剤で反応しない重症敗血症性ショックに直接的に治療効果を発揮する場合がある。一方で PMX-DHP は少なからず炎症制御に寄与することが明らかとなっており、中長期的に persistent inflammation, immune-suppression and catabolism syndrome といった炎症遷延を間接的に抑制できる可能性が示唆される。今こそ PMX-DHP を有効に活用するために、このような直接的短期効果と間接的長期効果それぞれを最大限に生かせる形で PMX-DHP を導入 / 運用しなければならないと考える。チャレンジングな内容を含めて、PMX-DHP の活用方法を再考する。